

## 戦没者遺族会への聞き取り調査（記録）

土岐 治夫 さん

小林先生：土岐さんよろしくお願ひします。

土岐さん：僕の父が戦争へ行ったんは僕が幼稚園、京都市内住んでまして、幼稚園通ってまして、その時に戦争行きました。

母親は父も母も学校の教師してましたんで、生活は戦争中でもね、案外とねひもじい思いはしてません。

まあ僕は兄弟あの女2人、姉が2人で僕が一番下です。ほんでもうあの、疎開はちょうど、京都市内の疎開は小学校3年生からすることになってまして。僕はその時まで幼稚園通ってましたんで疎開する資格はなかったんで、ほんで、そうこうしてたら母親も疎開で、あの小学校の教師してたから行ってしましまして、宮津の方に行ってしましまして。

結局姉やらおったんですけども、まあ姉は近くの家に行ってまして、僕は舞鶴へあの母親のいや、父親の里の舞鶴へあの疎開しに行きました。

舞鶴はもうものすごい空襲でね。

小林先生：そうですね。

土岐さん：すごかったですよ。毎晩ね大体決まってね、12時頃もう必ず。そういうてね、家の方は爆弾落としませんねん、海ばかり。

もうその時は僕おばあちゃんやらに聞いてたらもう、日本は負けるさかいに、そんな心配する必要ないと。海ばかり舞鶴湾ばかりですわ、同じところばかりあの空襲してました。

ほんで舞鶴で小学校1年入学しまして、ほんで8月に終戦になりまして、そんでもう、すぐにみんな帰ってくるさかい、もう親元へ、母親や帰ってくるさかい、また京都戻りました。

そういう生活で非常にあの、父親もあの学校に行ってたからね。あの、いわゆる生徒も、生徒さんもよく来てましたんでね。

土岐さん：ほんで半年ほどたって帰りました。あの、それから半年ほどたってお骨帰ってきました。

小林先生：誰の。

土岐さん：父親です

小林先生：お父さんはいつ、いつぐらいでしたっけ。

土岐さん：42歳。

小林先生：42歳で出征された。

土岐さん：というのはねそれまで学校の教師してたんですわ。

そやけどね化学の教師やってね、母もね、ほんで終戦も昭和19年の末期にね、あの爆弾のね、あれでね出征とられまして、ほんで沖縄へ行きました。

沖縄へね半年ほどしてから戦死。

小林先生：20年の何月、5月くらいですかね。

土岐さん：死んだん6月。

まあそういうあれで割合と僕は、恵まれていると自分では思ってたんですわ。

そういう生活であの毎日、まあ姉はおったしね、あのあんまり年が違わん姉やったからね2つづつ違ってたからね。まあまあ一緒に話してね、ほがらかにね。

ほんでまああのご飯の用意はね母親帰ってからごはん。あの終戦後は晩御飯はね姉弟3人でね、早う帰ったもんがするゆうて。ほんで僕もその時ごはん準備してました。

ほんで戦争中の食べ物いうたら一番僕は多かったんは、あのサツマイモのねあのおかゆさんですわ。まあそんなね、よう食べさせてもらいましたね。

小林先生：それで、お父さんは京都に行かれて、伏見からいかれた。

土岐さん：伏見に行きましてね。あの京都駅まで見送りまして

小林先生：どこで。

土岐さん：京都。ほしたら、お守りさんを忘れましてね、また一緒に取りに帰りまして、それを覚えてますわ。そういう会えへんかな、みんながそういう気持ちやったんかな。

小林先生：見送りの人とかたくさんいきましたか。

土岐さん：ようけ行ってます。僕ら身内みんな行ってますしね

小林先生：京都駅まで見送りにいかれた。

土岐さん：京都駅まで。ほんで、沖縄の真壁いうところでね、僕はもう心配してたんは、沖縄までいかんと途中で死ぬかいなと思ってたんです。

ところが沖縄の頼りにありまして、元気に暮らしてる。

向こうで馬乗ってね。ずっと部隊を回らなあかんかったらくして。馬ばかり、剣下げてね馬ばかりで走ってたその写真を送ってくれましてね。

小林先生：そうですね。土岐さんはあの戦後のことで何か。

土岐さん：もう戦時中は毎日爆撃ばかり、しましたけど。

まあ戦後はあのもう終戦になってすぐにね、あのみんないっしょにね、宮津の方に。んで僕も舞鶴の駅まで行ってね、一緒に連れられて、帰ったんよう覚えてますわ。

んでお骨の方はね東本願寺にいきましてね、取りに行きまして2000体ほどあったかな。

小林先生：何年ぐらいですかね。

土岐さん：昭和 20 年の 6 月です。死んだんは。お骨もらいに行ったんは 11 月です。

小林先生：11 月。

土岐さん：ほんで白い布をね、あれして帰りました。

小林先生：東本願寺に行かれた。

土岐先生：東本願寺に。ほんでその帰りにね、よう覚えてんねんけど通る人がみんなこうしてね、あれして、拝んでくれましたけどね。

あの、お墓は舞鶴ですしね、ほんで舞鶴まで僕は帰って、そしたら皆こうして拝んでくれてはったことは、ようよう覚えてます。

小林先生：ありがとうございました。